

第35週の発生動向 (2004/8/23~2004/8/29)

- 咽頭結膜熱については、先週に引き続き弘前、上十三保健所管内で**警報**が出されています。
- ヘルパンギーナについては、一旦減少し、再び増加しました。特に弘前保健所管内では30人から52人へと増加しました(図2)。むつ保健所管内でも依然として**警報**が出ており、気温の高い日が続いているため、今後も注意が必要です。

第35週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱	2	0.25	5	0.50	2	0.22			8	1.33			17	0.40	±0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4	0.40	1	0.11			2	0.33			7	0.17	-6
(62) 感染性胃腸炎	10	1.25	10	1.00	2	0.22	1	0.20	6	1.00	11	2.75	40	0.95	-15
(63) 水痘	3	0.38	6	0.60			2	0.40	13	2.17			24	0.57	10
(64) 手足口病	6	0.75	3	0.30	5	0.56			6	1.00	1	0.25	21	0.50	12
(65) 伝染性紅斑	2	0.25							1	0.17			3	0.07	-1
(66) 突発性発疹	1	0.13	10	1.00	7	0.78	2	0.40	4	0.67	6	1.50	30	0.71	2
(67) 百日咳															-2
(68) 風疹															-1
(69) ヘルパンギーナ	28	3.50	52	5.20	10	1.11	5	1.00	2	0.33	38	9.50	135	3.21	32
(70) 麻疹(成人を除く)															-3
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.50	1	0.10	13	1.44			1	0.17			19	0.45	2
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					3	1.50	1	1.00					4	0.36	-7

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

※ インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 [空欄]: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

(59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患)	弘前保健所管内	3人	(16年計 27人)
(14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患)	弘前保健所管内 (O157:2, O26:1)	3人	(16年計 16人)
(9) コレラ (二類全数把握疾患)	青森保健所1人、五所川原保健所1人	合計2人	(16年計 2人)
(82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患)	八戸保健所管内	1人	(16年計 80人)

感染症の窓

ヘルパンギーナ (herpangina)

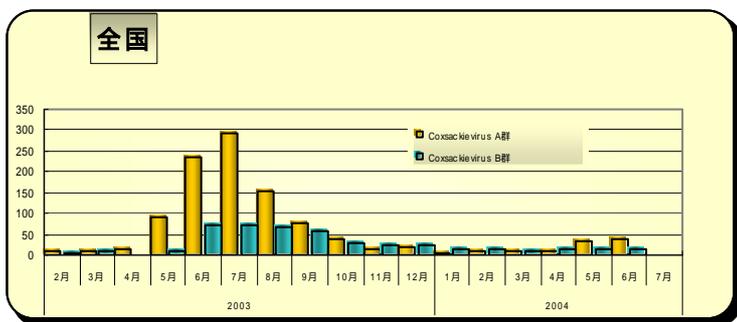


図1 Coxsackievirus 分離状況 (2003年2月~2004年7月)

病原微生物検出情報, 2004年7月23日現在

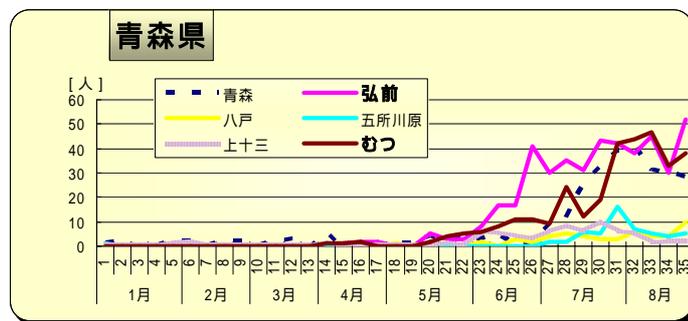


図2 2004年保健所別患者推移 第35週現在

**病原体** ☞ 主な病原体は、コクサッキーウイルスA群です。本ウイルスは、ピコルナウイルス科に属するエンテロウイルスです。ポリオウイルス、コクサッキーウイルスA群、コクサッキーウイルスB群、エコーウイルス、エンテロウイルス68~71型などが含まれます。エンテロウイルスは、**湿度が高く気温の高い**夏季(5月~8月)に流行することが報告されています(図1)。

**感染予防** ☞ 乳幼児の介護者は特に**手洗いを励行**し、うがいや手指の消毒を行うことが大切です。